

## 幼保小の連携に即した授業の考察Ⅱ

### — 小学校音楽科教育をみすえて —

#### *A Study about Class from Relation between Kindergarten, Nursery and Elementary School*

#### *— Reflecting on Music Education of Elementary School —*

星野 英五 *Eigo Hoshino*

(人間発達学部)

### I. 動機

人間発達学部子ども発達学科は、2014 年度で 8 年目を迎えている。本学部は、短期大学保育科・児童教育科からの資産を受け継ぎ、芸術的環境のもとで高い音楽能力を備えた学生を養成することを目的とする。今年度から、ディプロマポリシーとして「保育・教育の理論とスキルを学び、実習等の経験を積み上げ、芸術的感性を備え、教育・福祉の両面で、子どもの成長・発達を支える力を獲得したものに学位（教育学）を授ける」としている。このことは、幼児期と学童期の発達の連続性を考慮に入れた子どもの音楽活動ができる学生を養成することにつながると考える。

幼稚園教育要領『表現』において「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする」とある。一方、小学校学習指導要領『音楽教育の目標』として「表現及び鑑賞の活動を通して音楽を愛好する心情や音楽に対する感性を育てるとともに、音楽活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養う」とある。幼稚園では遊びを通じた音楽活動が主流であり、小学校では教科としての音楽であるが、両者ともに感性や創造力そして豊かな情操を育むことが共通目標である。

これら幼稚園教育要領・小学校学習指導要領の共通目標を明確に理解することで子どもたちに「音楽する心」を与えられる保育者・教育者を養成できると考える。両者共通目標を実践するのにあたり、学生の壁になっているものがあるとしたら何であろうか。

人間発達学部学生は保育士資格、幼稚園・小学校教諭免許を同時取得する現状が多い。特に小学校低学年は幼稚園・保育所の表現活動の関連を考慮することが言われている。本学学生は保育・教育実習を経験することで子どもの発達の連続性の理論を肌で感じ、表現活動の大切さを知る。しかし、音楽関連授業への積極性へは結びつかない。学生自身の幼少時代の音楽嗜好が、現在の音楽意識に影響しているのではなかろうか。

今までの研究から、学生は「楽しさ活発さ静かさ優美さなど曲の感じが分るようにする」「歌の歌詞に表す情景や気持ちを想像することができるようにする」などの情操教育に関わる音楽活動項目を小学校で重視し、「手・指遊びの創作やアレンジができる」「リズムカルな表現」「音楽的リズム活動は子どもの心身の発達に大きく影響する」等、即役立つ項目は保育者（幼稚園・保育所）で重視していることが分かる（2012）。

本研究は、幼稚園・保育所時代の音楽活動の思い出が『非常に好き』であった学生 45 名 (A 群) と『どちらかといえば好き』『嫌い』『非常に嫌い』と答えた学生 59 名 (B 群) に分け、音楽活動の意識にどう影響するのかを探り、保育者 (幼稚園・保育所) と教育者 (小学校) の音楽活動をどのように捉えているかを比較検討し今後の音楽授業展開を考えていくものである。

## II. 研究方法

対象：2012 年度 3 年生 40 名・2013 年度 3 年生 64 名

合計 104 名 (男 32 名・女 72 名)

時期：2012 年 1 月・2013 年 6 月

方法：一斉による質問紙調査

## III. 結果と考察

### 1. 音楽活動の記憶

表 1 小学校の音楽活動 (授業) の記憶

項 目	単位；名 (%)			
	他の授業より好き		どちらかといえば好き・嫌い (非常に)	
	A 群	B 群	A 群	B 群
小学校低学年 (1・2 年)	38名(84.4%) >	10名(16.9%)	7名(15.6%) >	49名(83.1%)
小学校中学年 (3・4 年)	37名(82.2%) >	9名(15.3%)	8名(17.8%) >	50名(84.7%)
小学校高学年 (5・6 年)	35名(77.8%) >	8名(13.6%)	10名(22.2%) >	51名(86.4%)

表 1 は、学生の小学校時代の音楽活動の記憶を 4 段階評定の内『他の授業より好き』『どちらかといえば好き』『嫌い』『非常に嫌い』に分け群別に示したものである。

「小学校低学年」「小学校中学年」「小学校高学年」において『他の授業より好き』は、大きな差がみられ A 群が高い ( $p < 0.1$ )。学生の幼稚園・保育所時代の音楽活動の思い出が小学校低中高学年の記憶に影響している結果となる。その理由は、学生の自由記述からリコーダー・カスタネット・ピアノ等の楽器演奏や歌・合唱や鑑賞の活動の他、音楽理論のペーパーテストが現在の音楽の嗜好に影響していることが分る。保育・教育者が結果を評価するのではなく、幼少期における子どもの特性に合わせた音楽活動の経過を配慮することが保育者・教育者に要求される。

## 2. 大学の授業について

表2 大学の授業で重視したいもの

項目	保育者（幼保）		教育者（小学校）	
	A群	B群	A群	B群
タンブリンや色々なリズム楽器を扱う	28名(62.2%)	23名(39.0%)	27名(60.0%)	18名(30.5%)
音程やリズムに気をつけて歌える	25名(55.5%)	28名(47.5%)	28名(62.2%)	26名(44.1%)
わらべ歌で遊ぶ	30名(66.7%)	32名(54.2%)	14名(31.1%)	9名(15.3%)
歌詞の内容や曲想を味わい表現工夫をし歌う	15名(33.3%)	16名(27.1%)	32名(71.1%)	23名(39.0%)
幅広く主体的に音楽鑑賞をする	10名(22.2%)	8名(13.6%)	25名(55.6%)	22名(37.3%)
音程やリズムに気をつけて歌える	25名(55.5%)	28名(47.5%)	28名(62.2%)	26名(44.1%)
音楽理論が分かる	4名(8.9%)	7名(11.9%)	18名(40.0%)	14名(23.7%)
絵本や詩にメロディーつけることができる	16名(35.6%)	15名(25.4%)	10名(22.2%)	10名(16.9%)

表2は、大学の授業に期待するものについて、『非常に重要だと思う』『やや重要だと思う』『あまり重要だと思わない』『全く重要だと思わない』の4段階評定の内『非常に重要だと思う』を群別に回答したものである。「音程やリズムに気をつけて歌う」「わらべ歌で遊ぶ」「歌詞の内容や曲想を味わい表現工夫をし歌う」「幅広く主体的に音楽鑑賞をする」「音楽理論が分かる」はA群が教育者で高い ( $p < .05$ )。音楽の基礎となる「タンブリンや色々なリズム楽器を使う」はA群が保育者・教育者で高く ( $p < .01$ )、両群ともに重視していることがわかる。歌の表現工夫や楽しさを理解しようとする意識と音楽理論の必要性はB群が教育者で低く、幼少時代の記憶が影響している。

## 3. 音楽的保育者・教育者観

表3 音楽的保育者観・教育者観

項目	保育者（幼保）		教育者（小学校）	
	A群	B群	A群	B群
子どもの発達に合った音楽指導できる	31名(68.9%)	34名(57.6%)	33名(73.3%)	35名(59.3%)
音楽が好きである	31名(68.9%)	36名(61.0%)	29名(64.4%)	29名(49.2%)
個々の子どもの音楽的能力を把握できる	25名(55.6%)	21名(35.6%)	22名(48.9%)	30名(50.8%)
生活の中の音に耳を傾け音の面白さに気付く	30名(66.7%)	19名(32.2%)	26名(57.8%)	19名(32.2%)
子どもの気持ちを読み取り音楽活動に結び付ける	30名(66.7%)	31名(52.5%)	27名(60.0%)	25名(42.4%)
創造的に音楽に関わり音楽活動に意欲がある	26名(57.8%)	21名(35.6%)	25名(55.6%)	25名(42.4%)
子どもに合わせて伴奏ができる(ピアノで)	33名(73.3%)	36名(61.0%)	26名(57.8%)	25名(42.4%)
音楽に合わせて体を動かすことができる	35名(77.8%)	37名(62.7%)	28名(82.2%)	22名(37.3%)
歌える歌のレパートリーが多い	32名(71.1%)	36名(61.0%)	32名(71.1%)	33名(55.9%)
リズム感がよい	30名(66.7%)	33名(55.9%)	31名(68.9%)	30名(50.8%)
手・指遊びの創作やアレンジができる	32名(71.1%)	38名(64.4%)	15名(33.3%)	17名(28.8%)
手・指遊びが上手である	34名(71.1%)	35名(64.4%)	16名(33.3%)	16名(27.1%)

表3は、音楽的保育者観・教育者観について、『非常に重要だと思う』『やや重要だと思う』『あまり重要だと思わない』『全く重要だと思わない』の4段階評定の内『非常に重要だと思う』を群別に回答したものである。「生活の中の音に耳を傾け面白さに気付く」「気持ちを読み取り音楽活動に結びつける」「創造的に音楽活動に関する意欲」「音楽に合わせて体を動かす」はA群が保育者・教育者で高い ( $ps < .05$ )。「発達に合った音楽指導」「音楽が好き」「子どもに合わせてピアノを弾く」「歌のレパートリーが多い」「リズム感がよい」が教育者においてA群が高い ( $ps < .05$ )。「音楽が好き」はB群で小学校教員の資質には必要をあまり感じず、「発達に合った音楽指導」も同様と捉えている。「個々の音楽能力の把握」についても保育者に必要性を感じていないのは、学生自身の経験から、音楽活動を避けているのであろう。音楽活動においてピアノや歌や体を動かす等技能の必要性と共に音楽を楽しむ事の大切さをB群に説き苦手意識を払拭することを期待したい。

#### 4. 音楽的保育・教育観

表4 音楽的保育観・教育観

項目	保育者 (幼保)		教育者 (小学校)	
	A群	B群	A群	B群
音楽的リズム活動は心身の発達に影響する	33名(73.3%)	37名(62.7%)	24名(53.3%)	24名(40.7%)
楽しく音楽に関わり興味関心を持たせる	33名(73.3%) >	35名(59.3%)	30名(66.7%) >	28名(47.5%)
生活の中の音や音楽の関わりを大切にす	28名(62.2%) >	28名(47.5%)	21名(46.7%)	25名(42.4%)
わらべ歌遊びは日常的に取り入れる	23名(51.1%)	25名(42.4%)	13名(28.9%) >	8名(13.6%)
楽しさ活発さ静かさ優美さ等曲の感じが分る	18名(40.0%) >	17名(28.9%)	24名(53.3%) >	22名(37.3%)
音楽環境が子どもの心理状態に影響する	20名(44.4%)	22名(37.3%)	16名(35.6%)	16名(27.1%)
歩く走るスキップ等リズムカルな動き楽しむ	32名(71.1%) >	32名(54.2%)	22名(48.9%) >	15名(25.4%)
CD等音響機器は音質の良い物を選ぶ	24名(53.3%) >	21名(35.6%)	26名(57.8%)	27名(45.8%)
音楽発表会は日常的活動から結びつける	26名(57.8%) >	21名(17.0%)	19名(57.8%)	19名(33.2%)
鑑賞曲は時間が短く子どもの分り易い物を選ぶ	24名(53.3%) >	23名(39.0%)	16名(35.6%)	16名(27.1%)
自分で感じた事そのまま動きのリズムで表現	20名(44.4%)	22名(37.3%)	18名(40.0%) >	15名(25.4%)
歌詞の表す情景を気持ちで想像できる	14名(31.1%) >	10名(17.0%)	26名(57.8%) >	20名(33.9%)

表4は、音楽的保育者観・教育観について、『非常にそう思う』『ややそう思う』『あまり思わない』『全く思わない』の4段階評定の内『非常にそう思う』を群別に回答したものである。「楽しく音楽に関わり興味関心を持たせる」「楽しさ活発さ静かさ優美さ等曲の感じが分る」「リズムカルな動きを楽しむ」「歌詞の表す情景や気持ちを想像できる」はA群が保育者・教育者で高い ( $ps < .05$ )。「生活の中で耳にする音や音楽の関わりを大切にす」「CD等音響機器は音質の良い物を選ぶ」「音楽発表会は日常的活動から行う」「鑑賞曲は時間が短く分り易い物を選ぶ」が保育者においてA群が高く ( $ps < .05$ )、「わらべ歌を日常的に取入れる」「感じた事を動きのリズムで表現する」が教育者においてA群が高い ( $ps < .05$ )。

B群は日頃の生活の中から音楽を楽しむ姿勢が感じられない。B群の音楽に対する意識を高めたい。

#### Ⅳ. まとめと今後の課題

幼児期の「音楽が好き」であった気持ちが年齢を経ていく内にどう変化し、現在の意識を作り出していくのであろうか。小学校男児に限らず「音楽嫌い」は存在すると言われている。これは「音楽」そのものが嫌いというのではなく理論・リコーダー・人前で一人で歌うことなどを指していると考えられる。

B群に、聞き取りをすると、クラス合唱の思い出は良いという学生が多い。クラス合唱は達成感が大きかったようであり、この気持ちを大学の授業に活かしたい。また、「音楽嫌い」は音楽活動や授業の仕方の問題であり、楽器や歌の表現の工夫を要求されることを嫌う傾向が強い。教育・保育者が子どもと同じ目線で活動し、見本を示すことが大切である。音楽教育の基盤は幼児教育によって決定される。幼稚園・保育所の「領域表現」の音楽活動と小学校における「教科」としての音楽活動ではその差は大きいですが、根本にあるねらいには共通点がある。年齢に関わらず「自由に歌うこと」が好きな子どもが多いが、教育・保育者が「自由に歌うこと」を否定せず子どもの気持ちを大切にし教科につなげていくことが必要である。「表現の工夫」は、音楽において豊かな情操を養う為に重要であり、生活に潤いを持たせる。「表現の工夫」を要求するのではなく子どもたちが自ら工夫する意欲を持つことが望ましい。

本研究で、幼少時や小学校の音楽活動の経験次第で音楽に深く関れず楽しむことができない学生が多いことが分る。保育者・教育者を目指す学生が最初に出会った幼少時の音楽活動やその後の小学校の音楽授業が現在の音楽意識に影響している。B群の学生自身が「音楽が好き」な気持ちを持ち、その上で正しい音程・発声・音楽理論等を学ぶ姿勢を期待したい。「音楽嫌い」な気持ちを連鎖させることがない教育・保育者を育てたい。教育・保育者が音楽活動を楽しむことを子どもに伝えることが、幼保小連携に基づいた幅広い子どもの発達の連続性を踏まえた音楽教育に結びつく。学生が積極的に音楽する心情や意欲が湧くように、学生個々の音楽経験を活かした音楽授業展開を考える。

今後、保育・教育者がどのような音楽意識を持っているか保育・教育現場に研究対象を広げたい。

## 引用文献

- 星野英五 2009 「本学学生の音楽意識—短期大学と四年制大学の比較から—」  
名古屋芸術大学研究紀要第 30 巻 pp.393-398
- 星野英五 2011 「幼保小の連携に即した授業の考察—保育者希望と小学校教諭希望の音楽意識の違いから—」  
名古屋芸術大学研究紀要第 32 巻 pp.311-317
- 星野英五 2012 「学生の音楽意識 I—保育者と小学校教諭との関わりから—」  
日本保育学会第 65 回発表論文集 p.546
- 星野英五 2013 「幼保小の連携に即した授業の考察—小学校音楽科教育をにらんで—」  
名古屋芸術大学研究紀要第 34 巻 pp.295-303
- 星野英五 2014 「学生の音楽意識—幼少時代の音楽嗜好から—」  
日本保育学会第 67 回発表論文集 p.956

## 参考文献

「2011 年度改訂版小学校音楽科教育法」有本真紀他編著 教育芸術社

## 追記

本稿は、日本保育学会第 67 回大会発表論文集「学生の音楽意識—幼少時代の音楽嗜好から—」を転載・改稿し内容を深めたものである。

## 質問紙

### I. あなたの免許・資格取得と就職について

- ① あなたはどの資格・免許を取得しますか。あてはまるものを選んで右欄の数字にいくつでも○をつけて下さい。
1. 幼稚園教諭免許    2. 保育士資格    3. 小学校教諭免許
- ② あなたの就職希望は、現在、どれにあてはまりますか。右欄の数字に○をつけて下さい。
1. 幼稚園    2. 保育所（園）    3. 小学校    4. 施設関係    5. その他

### II. 小学校時代の音楽授業の思い出について

- ① 小学校の音楽の授業は、あなたにとってどんな存在でしたか。4「他の授業より好きである」、3「どちらかといえば好きである」、2「嫌いである」、1「非常に嫌いである」の中から一つ○をつけて下さい。
- 1・2年生の時    3・4年生の時    5・6年生の時
- ② 音楽の授業の何が得意でしたか？
- ③ 音楽の授業の何が苦手でしたか？

### III. 幼稚園・保育園時代の音楽活動の思い出について

- ① 幼稚園・保育園時代の音楽活動は、あなたにとってどんな存在でしたか。4「非常に好きである」、3「どちらかといえば好きである」、2「嫌いである」、1「非常に嫌いである」の中から一つ○をつけて下さい。
- ② 音楽活動の何が得意でしたか？
- ③ 音楽活動の何が苦手でしたか？

### IV. 高校時代の音楽の授業について

- ① 音楽の授業を選択していましたか。1. 「はい」 2. 「いいえ」の中から一つ○をつけてください。

### V. 教育者・保育者養成の授業について（あなたが取得する免許・資格に関わらず答えて下さい）

教育者・保育者にとって音楽活動をする上で、以下の項目をどの程度重視した方がよいと思いますか。

4「非常に重要だと思う」、3「やや重要だと思う」、2「あまり重要だと思わない」、1「全く重要だと思わない」の中から保育者（幼・保）・教育者（小学校）に分け1つずつ選んで○をつけて下さい。

- (1) 子どもに合わせて伴奏ができる（ピアノ・エレクトーンで）    (2) 音程やリズムに気をつけて歌える  
 (3) 歌詞の内容や曲想を味わい表現工夫をし歌える    (4) 幅広く主体的に音楽鑑賞する  
 (5) わらべ歌で遊ぶ    (6) 音楽理論が分かる  
 (7) タンプリンや色々なリズム楽器を扱う    (8) 絵本や詩にメロディーをつけることができる

### VI. 教育・保育について

あなたの考えている教育・保育に、次の項目はどの程度あてはまると思いますか。または必要だと思いますか。

4「非常に思う」、3「やや思う」、2「あまり思わない」、1「全く思わない」の中から保育者（幼・保）・教育者（小学校）に分け1つずつ選んで○をつけて下さい。

- (1) 音楽的リズム活動は子どもの心身の発達に大きく影響する  
 (2) 音楽に親しむことは生活にうるおいを持たせることになる  
 (3) 音楽環境が子どもの心理状態に影響する  
 (4) 自分で感じ考えた事をそのまま動きのリズムで表現する

- (5) おだやかなメロディーは優しさや思いやりをはぐくむ
- (6) わらべ歌遊びは、日常的にとり入れるようにする
- (7) 合奏指導は、幼児期に体験させるようにする
- (8) ピアノなどのおけいこごとは幼児期からとり入れるようにする
- (9) 鑑賞曲は、時間の短いもの、子どもに分かり易いものを選ぶ
- (10) 歌の歌詞に表す情景や気持ちを想像することができるようにする
- (11) 音楽発表会は、日常的な活動からむすびつける
- (12) 歩く走るスキップなどリズムカルな動きを楽しむ
- (13) 子どもの生活の中でよく耳にする音や音楽の関わりを大切にする
- (14) CDなどの音響機器は音質のよいものを選ぶ
- (15) 楽しさ活発さ静かさ優美さなど曲の感じがわかるようにする

#### Ⅶ. 保育所・幼稚園・小学校の先生のあり方について

あなたは、保育所・幼稚園・小学校の先生として、次の項目はどの必要であると思いますか。

4「非常に重要だと思う」、3「やや重要だと思う」、2「あまり重要だと思わない」、1「全く重要だと思わない」の中から保育者(幼・保)・教育者(小学校)に分け1つずつ選んで○をつけて下さい。

- (1) 音楽が好きである
- (2) 生活の中にある音に耳を傾け音を探し音の面白さに気付く
- (3) 創造的に音楽に関わり音楽活動に意欲がある
- (4) 子どもの気持ちを読み取り音楽活動に結びつけることができる。
- (5) 音楽指導の中で個々の子どもの音楽的能力を把握できる。
- (6) 音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を持っている。
- (7) 子どもの発達に合った音楽指導ができる。
- (8) 音楽の要素や構造と曲想の関わりを感じ取り言葉で説明できる。
- (9) 歌える歌のレパートリーが多い。
- (10) 響きのあるきれいな声である。
- (11) 鍵盤楽器(ピアノ・エレクトーン)以外の楽器ができる。
- (12) 手・指遊びの創作やアレンジができる。
- (13) 手・指遊びが上手である。
- (14) リズム感がよい。
- (15) 子どもに合わせて伴奏ができる(ピアノ・エレクトーンで)
- (16) 音楽に合わせて体を動かすことができる。

どうもありがとうございました。